

## <マッチレポート>

### 総 評

令和元年7月21日から8月1日までの日程で1次トーナメント、10月19日から11月30日の日程で決勝トーナメントが行われ、7年連続となった市立船橋と流通経済大柏の対戦となり、市立船橋高校が勝利し、3年ぶりの全国大会への切符を手にした。

1次トーナメントでは酷暑が予想されたことから、試合時間が70分となり、キックオフ時間も昼間の時間を避けるなど例年とは違う形で開催された。暑さとの闘いともなった1次トーナメントではいかに我慢強くハードワークをして守備を続けられるかで勝負の命運を分ける試合が多く見られた。

1次トーナメントを勝ち抜けた20校にシード校の9校を合わせた29校で決勝トーナメントが行われた。今大会は市立船橋の畑大雅選手がU-17ワールドカップに出場することで日程が考慮された。今年度もどうやって2強に立ち向かうかというのが見どころとなった。総体予選では日体大柏に敗戦を喫してしまった両チームだが、プレミアリーグで闘うことによって冬には一回りも二回りも力強いチームを作り上げてきたという印象を持った。選手個々の体つきはもちろんのこと連続してプレーできるフィジカル、球際の部分で相手に譲らない強さなど、県リーグで闘うチームとの大きな差を感じ、お互いに準決勝では完勝といった内容で勝利した。

近年は各チームとも相手を研究し、相手のストロングポイントを消す守備戦術を立てて試合に臨んでいる。研究された中でも決定的な仕事ができるストライカーが出現してくることを期待する。常にGKの位置を確認しどこからでもゴールを狙っている、相手を抜き切らなくてもシュートに持ち込める、相手のマークを外す動き出し、ゴール前でのシュートのリバウンドに対する嗅覚などの質を突き詰められる選手。ゴールを奪うことに関しての要素を日々の練習はもちろんのことトッププレイヤーの映像を見たり、自分でイメージを思い描いたりして真剣勝負の場でどんな屈強な相手に対してもそれを体現できる選手。常に対峙する相手が嫌がることを試合終了までプレーし続け相手にとって脅威となれる選手。といったようなストライカーにとって必要な要素を備えた選手が一人二人と近い将来に出現してきてほしいと感じる。

なお、大会の運営については、会場役員や審判、記録の方々を始め、多くの方々のご協力によって進められた。大会運営に関わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、市立船橋の全国の舞台での活躍を期待し、総評とさせていただきます。

千葉県立船橋啓明高校 上芝 俊介

## 決勝 市立船橋高校 VS 流通経済大柏高校 (11/30)

両チームとも1-4-4-2のシステムで前半キックオフ。立ち上がりはお互いにロングボールで相手の背後を狙い、セカンドボールの拾いあいとなる。徐々にペースを握ってきたのは流通経済大柏。⑩八木、⑧大西が攻撃を組み立て、⑳羽坂のポストプレーや、⑦三好のスピードで市船陣内での展開が続く。しかし、11分市立船橋は②畑が奪ったボールを⑨松谷へ、松谷がワンタッチで右サイドに流れた⑩鈴木に縦パスを入れ、そのまま持ち上がり中に入れたクロス⑧森がDFと競り合いながらもゴールに押し込み先制する。その後流れに乗りたい市立船橋であったが、奪った後のボールを流通経済大柏の早いプレッシャーによって繋ぐことができず、クリアしても相手にボールが渡ってしまい、また押し込まれるといった我慢の時間となった。なおも流通経済大柏はCKやロングスローで相手ゴール前に迫るが、市立船橋の⑯石田を中心とした守備は固く、セカンドボールを⑤町田が回収することで高い位置での効果的な二次攻撃にはつなげさせず、ゴールを割らせなかった。

後半に入り、流通経済大柏が押し込み、市立船橋がカウンターを狙うといった展開はかわらない。46分には⑩八木が右サイドから上げたクロスボールから⑧大西の得点につながり、そこから11分間で市立船橋、流通経済大柏、市立船橋と得点が生まれ激しい点の取り合いとなった。守備を落ち着かせたい市立船橋は62分に⑭岩田に代わり⑥中村が入り、守備時は1-5-4-1のシステムで、ロングボールで押し込んでくる相手に対してしっかりとした守備ブロックを構築し攻撃を跳ね返し続ける。攻撃時には②畑、③植松を押し上げてサイドから突破も狙う。なんとか1点が欲しい流通経済大柏は②清宮⑬木村のロングスローで相手を押し込んでいくが、ゴールをこじ開けることはできなかった。試合を通して流通経済大柏ペースで進んだこの試合だったが、市立船橋のカウンター、決定力、守備の粘り強さが際立った試合だった。

千葉県立船橋啓明高校 上芝 俊介

## 準決勝 第1試合 専修大松戸高校 VS 市立船橋高校 (11/27)

専修大松戸は1-4-1-3-2、市立船橋は1-4-4-2のシステム。立ち上がり専修大松戸がボールサイドに人数をかけて攻め、細かいパスワーク、ドリブルで市立船橋の守備を崩そうとし、失った後も素早くプレッシャーをかけることでペースを握った。しかし8分、相手DFのラインコントロールの一瞬の隙をつき⑨松谷が背後に抜け出し市立船橋が先制する。その後市立船橋は、背後を狙うロングボールからセカンドボールを回収し、2次攻撃で両サイドバックの②畑、③植松が積極的にオーバーラップで相手ゴール前に迫る。その後専修大松戸は⑩吉川を中心とした攻撃で狭いスペースでも前を向き、ギャップにパスを通しゴール前に侵入するが決定的なシュートを打つまでには至らない。守備の面において専修大松戸はファーストDFに対してセカンドDFが狙えてないシーンが多くそのズレから市立船橋にボールを保持されるシーンが多く目立つようになり、市立船橋に追加点を許し前半を終えた。

後半に入り、市立船橋は守備の面においてさらにギアを上げ、一人一人の距離をコンパクトにしペナルティエリアの中に侵入させない。相手DFラインにもプレッシャーをかけることによってロングボールを蹴らし跳ね返してセカンドボールを攻守において素晴らしいポジションを取り続けている⑤町田が回収し試合を優位に進める。攻撃では相手の一枚のアンカーの脇でボールを受け、サイドからのオーバーラップでゴール前に侵入する。なんとか1点が欲しい専修大松戸は⑩吉川にボールを集めるがボールを受ける位置が低く決定的な仕事をさせてもらえない。後半にも2点を追加した市立船橋が完勝ともいえる内容で決勝へと駒を進めた。

千葉県立船橋啓明高校 上芝 俊介

## 準決勝 第2試合 翔凛高校 vs 流通経済大柏高校 (11/27)

翔凛は1-4-1-4-1、流経大柏は1-4-4-2のシステム。立ち上がり翔凛は⑨石川に長いボールを入れ、そのセカンドボールを⑧篠塚が回収し、サイドの⑩角田に預けて攻撃を展開しようと試みる。それに対して流経大柏はCBが翔凛のロングボールをしっかり跳ね返し、中盤でのセカンドボールの球際も強く、徐々にゲームの主導権を握っていく。前半20分過ぎに⑫橋本が怪我により⑤古谷に交代するというアクシデントがあったが守備バランスは崩れない。攻撃に関しては、2トップとサイドハーフが流動的にポジションチェンジを行い翔凛のアンカー脇のスペースを突き、⑧大西と⑩八木とのコンビネーションや⑦三好のキレのあるドリブルなどから相手ゴールに迫る。流経大柏の攻撃に対して翔凛のDF陣は空中戦や対人では③レオナルドを中心に粘りを見せていたが、前半終了間際、流経大柏の変化のFKからのこぼれ球を⑩八木がダイレクトでシュートを打ち先制点を決める。

後半立ち上がり、流経大柏の⑦三好が右サイドから突破してクロスを上げ、⑨渡会が飛び込みダイレクトで合わせるが決めきれず。対して翔凛も⑩が左サイドから突破しカットインしミドルシュートを打つが枠外で、互いにビッグチャンスを生かせない後半の立ち上がりとなった。後半10分過ぎ、左サイドからのFKを⑫羽坂がフリーでヘディングシュートを打つが翔凛①浅沼がナイスセーブ。そのCKからのこぼれ球を⑧大西がシュート性のボールを中央に入れ、ゴール前⑤古谷が追加点。その後も流経大柏が攻守において圧力を増し攻勢に出て、⑦三好がバイタルエリアで素晴らしいターンから右足を振り抜き得点。翔凛は奪ったボールを⑨石川が前線で粘り、⑩角田を中心に相手ゴールに迫るが流経大柏の守備を崩せなかった。3-0で流経大柏が完勝し決勝へと進出した。

千葉県立船橋北高校 高橋 剛

## 日体大柏高校 VS 専修大松戸高校 (11/10)

日体大柏は1-5-2-3、専修大松戸は1-4-1-3-2システムでキックオフ。日体大柏は5バックと2ボランチを基盤にし、相手を引き込んで⑭耕野のスピードを起点にしてカウンターを狙う。⑤伊藤⑦吉沢のロングスローも攻撃のアクセントであった。専修大松戸は選手同士の距離を近くしてコンビネーションを使い、ショートパスとドリブルを活かして相手の守備を崩そうとする。攻撃時に局面の人数を多くし、ボールを失った瞬間の奪い返しを優位にして2次攻撃を狙う。セットプレーではバリエーションを複数用意し、得点機会の1つとして重視していた。日体大柏は、専修大松戸のモビリティに対してチャレンジ&カバーが曖昧になっていたが、システムを1-5-3-2に変更して守備エリアを押し上げ、スピードを活かしたカウンターの回数を増やした。それに対し、専修大松戸は選手交代を活用しながら攻撃に変化をつけてチャンスを作った。お互いにチームの特徴を発揮した形で1点ずつ奪って粘り強く戦い、延長終了間際に勝ち越しゴールを奪った専修大松戸が準決勝進出を決めた。

千葉県立千葉高等学校 堤 誠太郎

## 八千代高校 VS 流通経済大学付属柏高校 (11/10)

八千代、流経柏ともに1-4-4-2のフォーメーション。立ち上がりはお互いに慎重な入り方でリスクを最小限にし、八千代は⑨飯村、⑫松尾をターゲットに⑭堀の縦への推進力を生かした攻撃を展開するが、シュートまで持ち込むことはできない。対する流経柏は、相手のサイドの裏を取るロングボールを多用し、⑧大西の突破からチャンスを作り出す。お互いに相手のボールホルダーに対して素早いプレッシャーをかけて相手の自由を奪い攻撃の形を作らせず、攻守が目まぐるしく変わる展開となった。

後半に入り、流経柏は⑪新宮をターゲットに攻撃を仕掛け、⑱林投入後には1-4-4-1-1にフォーメーションを変え、セカンドボールの回収率が上がり、試合の主導権を握る。押し込まれた八千代がサイドに切ったボールもロングスローでゴール前に侵入し八千代に脅威を与え続ける。八千代は奪ったボールを⑩青木や⑬宮木に預けて攻撃のタメを作りたいが素早い流経柏のプレッシャーの前にロングボールを前線に供給して局面を打開するしかなくなってしまう。徐々に体力を消耗され、足が止まり始めた八千代に対して、流経柏はさらに前への意識を強め八千代DFに圧力をかけていく。後半35分にサイドからの二次攻撃で⑥橋本が挙げたクロスボールをファーサイドにいた⑨渡曾が相手と競り合いながら胸でコントロールし、八千代DFが寄せきれず中央でフリーになった⑧大西が先制点を挙げる。残り時間わずかとなった八千代は⑮山下のロングスローで押し込もうとするが、流経柏DFの粘り強い対応の前にシュートを打つことができず、無念の敗退となった。

千葉県立船橋啓明高校 上芝 俊介

## 翔凛高校 VS 暁星国際高校 (11/10)

勝てば6年ぶりのベスト4に進む翔凛高校対初のベスト4となる暁星国際の戦い。翔凛高校は守備の時は1-4-1-4-1のブロックを敷いてFW⑨石川の規制から守備をスタートする。攻撃時にはボランチ⑥岸野を最終ラインまで落とし、3枚でボールを動かしながら、FW⑨石川をターゲットに前進する。

対する暁星国際は、1-5-3-2のブロックで2トップの精力的な規制から中盤のゾーンでボールを奪いショートカウンターを仕掛けたい。ボールを保持している時は、両サイドバックは高い位置をとり、CB⑭国本の質の高い左足のロングフィールドで前線の動き出しや対角につけるパスを攻撃の起点とする。

前半16分、FKから奪った暁星国際はロングカウンター。FW⑩前橋のドリブルの仕掛けからペナルティエリア内の細かいワンツーで得点。しかし、その10分後、暁星国際はロングスローから、競って流れたボールを④土田が押し込んで同点とし前半終了。

後半、立ち上がりは翔凛高校がゲームを優勢に進める。後半から入った⑩角田が左サイドから縦への突破やドリブルのカットインなどゲームの流れを呼び込む。後半53分、翔凛高校はFKのチャンスからPKを獲得。⑨石川がシュートを打つがGK①吉川がシュートをストップ。その後、お互い中盤の激しい攻防からゴール前へ向かいたいが決定機を作れずに延長戦へ。

延長戦、暁星国際が⑭国本の質の高いロングフィールドで優位にゲームを進める。前線の動きに対して何度も背後にボールを送るが翔凛のDFもGKと連携しながら粘り強く対応し、ゴールを許さない。お互い一步も譲らず延長戦もそのまま終了しPK戦へ。PK戦を4-2で翔凛が制しベスト4へ進出した。お互いのサッカーを貫き、ベストを尽くした素晴らしいゲームだった。

千葉県立沼南高柳高校 尾張 堯映